スポーツボランティアの交流情報紙
SVニュース
発行　SV2004　(宮城県仙台市)
発行日　2008年11月15日　(月1回発行)
私たちはスポーツボランティア活動を応援します

全国ホームタウンサミット報告

第９回となる「全国ホームタウンサミット」が１１月１日山形県の天童市で開催されました。大会趣旨には「スポーツを通じたまちづくりとＪリーグの提唱する百年構想の実現に向け、全国のホームタウン関係者の交流・連携を図ることを目的とする」とあります。参加者はクラブ・行政・後援会・ボランティアなどさまざまで、今回は２２クラブの関係者が集まり、大会事務局メンバーのほか、地元の青年会議所や大学生が運営をサポートしてくれました。その実に中身の凝縮したサミットを振り返ります。開会式のあとは、Ｊリーグやバレーボール協会の理事である元バレーボール選手の三屋裕子さんの基調講演で、テーマは「プロスポーツと地域をつなぐ」でしたが、スーツ姿で元気良く登壇してから終わるまで、非常に熱く語ってくれました。

【 基調講演要旨 】

今、小学校・中学校で優秀なバレー選手が高校で、高校生が大学で、大学生が社会でバレーを止めてしまう「バーンアウト（燃え尽き）症候群」と呼ばれる現象がみられます。それは、スパルタ指導によって楽しくないと感じたり、進学した学校や地域に指導者やチームが無かったり、と取り巻く環境が悪化していることが原因で、従来は学校と企業が牽引してきたスポーツに限界がみえてきているのです。こうした状況や、高齢化社会の中での健康づくり・福利厚生などの問題も含め、「スポーツ」は「地域」と（一緒に）何ができ互いにどう支えあえるのでしょう。私は「スポーツ」が関われることはたくさんあると思いますが、まず優先すべきは「地域」が目指す姿が明確であり、そこに「スポーツ」がどう関わるかを考えることが大切で「スポーツ」が振興すれば「地域」が振興するというのは間違った考え方だと思います。

後期高齢者保健や介護の問題など、今の日本にはわくわく感がありません。更に肥満や認知症、骨粗しょう症・骨折などは全て運動とかかわっており、コミュニケーションを良くし運動することで避けられるものです。ただ（残念なことに）高齢者にスポーツをと言っても私には無理とか、運動神経がゼロだからとアレルギー反応を示す人多くハードルが出来てしまっているのが現状です。だからこそ、中高年やジュニア（段階から）のスポーツを考えることが大切といえます。

一方で子供達にはスポーツを「する子」と「しない子」の２極化がみられます。「しない子」が生まれる理由は「サンマ」といわれますがわかるでしょうか？　ひとつは塾通いなどで「時間」がないこと。自由に遊べる場所、つまり「空間」がないこと。そして遊ぶ「仲間」がいない、という「時間・空間・仲間」をさします。こうした状況から専門家たちは「子供の脳が危ない」と指摘しています。たとえば昔と違い手伝いをすることが無くなり、そこで失敗をする経験がなくなっています。子供達は失敗の積み重ねで「工夫したり」「知恵をつけたり」「心の強さ」を身につけてきました。現在は大人が失敗の芽を摘み取ってしまうため、成長してからの失敗が挫折につながりやすくなっています。また、スポーツをやらない子供達は「肥満」と「きれる子」になりブレーキが利かなくなり、びっくりするような凶悪犯罪が起こっています。これらは知っているがやったことがないなど体験の少なさも原因と考えられます。スポーツは「見る」・「応援する」だけではなく「する」こともとても大切なのです。

プロとアマチュアは何が違うのでしょうか。もともとアマチュアとは「アマトール」、つまり「愛するもの」が語源とされています。（ですから）スポーツのアマチュアとは「スポーツを愛するもの」ということになります。アマチュアの中で特に突出して優れたものがプロであり、プロこそは真のアマトールなのです。プロの素晴らしい試合をみることで「共感や感動」を得て、「模倣」から「創造」につながること、それが人々が運動に対して行動するひとつの流れだと思います。私たちの時代は男の子は「巨人・大鵬・卵焼き」であり、女の子は「サインはV」「アタックNO．１」でバレー人気が盛り上がりました。トップの選手が勝ったときの姿を見て、子供達はかっこいいと思いまねをしたのです。たくさんの言葉を使うよりもトップスポーツを見ることには大きな力があります。

私は長期的な卒業のないスポーツプログラムを早期に作る必要があると思います。そのためにいろいろな人たちの価値観を取り入れ複合的なものにする必要があります。そのひとつとして「総合型スポーツクラブ」が多種目・多世代のものとして誕生していますが、残念ながら「受益者負担」という考えがなかなか根付きません。

しかし、健康問題は自分たちでお金をだしてスポーツのプログラムを受ける時代になると思います。今後は学校・地域・企業が融合し既成の概念にとらわれずに全体で子供達を育てることが大切です。

プロは「地域の人がしてほしいと思うことをまずしてあげる」ということが大事で、そのことに対して「クラブ」「ボランティア」「地域の人」はどう関わっていけるのかを考えることで、それぞれが意義のある存在になるでしょう。

スポーツこそインテリジエンスがないとできません。いろいろな人とお付き合いをして相手を察して自分の行動を決めていく。チームで行う球技ではボールを持っていない人の動きが重要ですし、ボールをなげて取るという動作だけでも素晴らしく頭脳を使っているのです。まずはそのことをたくさんの人に理解して欲しいと思っています。

（もう一度繰り返しますが）自分たちの地域をどんな活動をしてどんな町にしたいのか。そこにスポーツがどう関わっていくのか、関われるのか。自分はどう関わっていくのかを考えることが何より大切です。そして、関わった人が自分なりのスポーツの価値観をぜひ作って欲しいと思います。

【 分科会報告 】

分科会は参加者が「クラブチームと地域の融合」「ボランティア団体同士の融合」というふたつのテーマについて８つのグループに分かれて意見交換をしましたが、ここでは、私の参加した「クラブチームと地域の融合」をテーマとした第１班からの報告です。全体では１０クラブが参加、冒頭の自己紹介に始まりどのように「いい関係を作るか」、ということについて互いに活動の状況を話し合いました。クラブや行政からの参加者からは「ホームタウン活動」の事例として、スクール訪問やサッカー大会の主催、社会人授業・介護予防活動への参加・招待事業などが紹介され、地域というよりもボランティアや後援会の活動としては、イベントのサポートやホームゲーム時の活動内容などが紹介されました。ほぼ一巡してからは互いの質問合戦となり、「ボランティアの処遇・クラブとのコミュニケーション」「婦人会として何が出来るか」「後援会について」「Ｊリーグ百年構想」などやや当初のテーマとはズレたかもしれませんが、率直な意見交換が行われました。その中で感じたのは基調講演で三屋さんが提案したように、「地域のめざすもの」に対して「スポーツ（クラブ）は何が出来るのか」という視点と、その中でそれぞれポジションの違う行政や後援会、ボランティアがどのように活動すべきか改めて考えることが大切ということでした。互いが何か足りないものを求め合うだけではなかなか進展はないのかもしれません。それぞれの目標を理解し合い、そこに至る段階を作り上げ、可能な範囲で一過性ではなく着実に支えあう仕組みを考え実行できたら、そこに関わる人も肩に力をいれ苦しげな顔をするのではなく、笑顔で活動できるのかもしれません。そこで大事になるのが、様々な地域の情報交換、出来るところは学びあい・助け合っていけたなら「百年構想」の実現は意外に早くなるように思います。

【 交流会報告 】

分科会のあとはお待ちかねの交流会です。しばらくぶりに会う仲間、初めて会う人、立食ですので、多くの人が自由に動き回りあちこちで会話がはずんでいます。中央のステージでは順番にクラブの紹介があり、中には漫才をする人もいれば、オークションを始める人もいてなかなかにぎやかでした。

ここにはクラブのスタッフもいれば、行政、ボランティア、後援会などさまざまな立場の人がいて人が人をつないでくれます。その日だけを考えれば短い時間ですが本当の付き合いはそこから始まると考えれば本当に貴重な時間と言えます。会場で川崎フロンターレの担当者が、ホームスタジアムである等々力競技場の改修のための署名への協力を呼びかけていました。多くの人が気軽に協力している姿が、勝負事の世界ではあっても人間同士は仲間でありたいという思いを象徴していると感じました。

交流会の最期に第１０回となる来年のホームタウンサミットの開催地が「新潟」に決まったことが報告され、サミット旗が天童から新潟に引き渡されました。こうして「思い」はつながっていくのです。交流会のあとは、二次会で深夜までとことん話す人、温泉地天童の良さを風呂に入って味わう人、とさまざまだったようです。

◆ 全国ホームウンサミットin天童　概要　＜主催者資料より＞　開催テーマ 「 You－Go（融合） ～ スポーツで笑顔の絶えないまちへ 」「

※ 開催月日　2008年11日1日（土）　※ 開催地　山形県天童市　※ 主催　ホームタウンTENDO推進協議会

※ 参加クラブ数　22　※ 参加者数　215名

スポーツボランティア意識調査

全国スポーツボランティア意識調査 No.１（2008年8月実施） その３ 最終回

＜調査の目的＞

今私たちの周りでは数多くのスポーツイベントが開催され、たくさんのスポーツボランティアが日常的に活動するようになっています。組織の形態も担当する活動内容もさまざまですが、そこには地元のスポーツイベントやチームを支えたいという強い思いがあります。しかし、自発的に参加することが基本となっている活動は、決して楽しいことばかりではなく、いつしか活動を止めていく人も多いのも実情です。そこで経験が豊富で全国のプロスポーツチームのサポートの中でボランティアとしてリーダー的なポジションにある方々に、活動のエネルギーや課題について答えていただきました。調査はメールにて行い回答もメールにていただきました。

【 協力いただいた地域／北海道・東京・愛媛・静岡・千葉・広島・茨城・新潟・神奈川・山梨・宮城・山形／回答順 】

８月に実施したボランティア活動の意識調査報告の３回目（最終回）は、活動の動機にもつながっている「交流」について、更にせっかくの機会ですので「自慢できるもの」と「課題」について質問してみました。

Q９ 現在、ボランティア同士の交流の場はありますか。なければ持ちたいですか。

ほとんどの方が内容に違いはあるものの「ある」と応えてくれました。活動のシーズン中は「懇親会・フットサル大会やボーリング大会」などが中心であり、シーズン終了後は「ボランティア感謝の納会」などを開催しているところが多いようです。このほかにボランティア組織と運営スタッフが共同で企画しているものとして「アウェー観戦ツァーや研修ツァー」（神奈川・新潟など）、スポーツバーでの「ゲーム観戦会」（新潟）など普段見ることの出来ない自分たちのサポートするチームの応援と交流企画を連動させているケースもありました。「近県３県のボランティア組織同士で交流会を開催している」（山形）など、同じ組織の中の人の交流だけではなく、他の組織との交流も活発になりつつあります。

一方では、もっと機会を増やしたい（千葉・山梨・静岡など）という意見や、交流したいがなかなか機運が高まらないという意見もありました。

→ 交流の場は増えつつあるが、参加者の拡大や内容の充実、機会の拡大には改善すべき点も指摘されました。

【山形･新潟･仙台交流芋煮会】

Q１０ 交流でどんなメリットがありますか。

さまざまな交流の場を設けることはどんなメリットがあるのかという質問については「仲間・モチベーション・共有」という言葉がキーワードとなりました。

○ 「仲間」

ポジションが違う人とも親交が深められ連帯感・仲間意識が生まれる（甲府）

全国に友達が出来る（神奈川）

○ 「モチベーション」

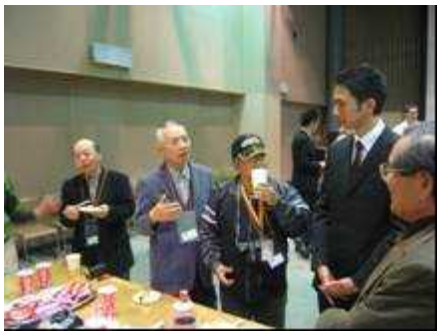
共感できる仲間がいることは活動のモチベーションアップにつながる

ボランティアの参加率がアップする （東京）

○ 「共有」

他部署の様子が聞けること （新潟・愛媛） 情報交換や親睦を深めることに役立つ （茨城）

→ 一緒に活動する人々が、親睦会などで交流することによって考え方や情報の共有がはかられ、仲間意識が高まることで活動のモチベーションが生まれ、高まるという流れがみえました。そのために仕掛け作りや、他の組織との交流などマンネリ化しないための工夫も求められます。



仙台８９ＥＲＳ
ボランティア感謝祭には選手・コーチ・スタッフ全員が参加してねぎらう

楽天イーグルス
球場で開催されるボランティア芋煮会は既に毎年恒例の企画として定着している

Q11　自分たちの活動で最も自慢したいことはなんですか。

○　組織や体制に関するもの

参加しているボランティア組織や、運営している組織と互いの関係に関するものが目立ちました。

運営組織（チーム）との信頼関係の強さ（神奈川）・スタッフとボランティアの距離が近いこと（新潟）

クラブとボランティアの関係が良いこと　（広島）

※　ボランティアの運営組織に関するものでは、「ボランティアの意見にきちんと回答してくれる（新潟）」もありました。

クラブ主導ではなく独立した団体として活動していること　（千葉）

同じように活動しているボランティア組織との交流の広さ　（宮城）

統率力、そして自律的な行動力、いわば「ボールも人も動く組織」である　（千葉）

○　活動しているメンバーに関するもの

優れた個性の集まりであり、場面場面に応じて自在に対応する能力　（宮城）

個人の意識が高く、常に問題意識を持つことでレベルアップしている　（山梨）

忙しさのピークの違いをお互いが判断してカバーし合えていること　（愛媛）

※　自慢ではないかもしれないがと断った上で「平均年齢が低いこと」（東京）をあげた組織もありました。

○　活動内容に関するもの

活動内容の多様さ　（茨城・山梨）

エコ活動を通じて観客へ啓蒙が出来ている　（宮城）

※　運営する側の取組みとして「試合の最期に場内放送にてボランティア活動者数の紹介など行い、内容の紹介などをビィジョンに映してくれる」（千葉）というものもありました。活動しているボランティアの認知を高めることも大切です。

→　今後、ボランティア活動の中で中長期の組織・活動の方向性や目標を考える意味で、正しく組織や活動の内容の長所・短所・特徴を理解することも大切になると思われます。何より、活動に自信や誇りを持つことはモチベーションにつながります。

Q12　現在、あるいは今後に向けての活動の課題は何ですか。

○　ボランティアの数に関するもの

ほぼ全ての組織が共通してあげた課題が「ボランティア数の増加」でした。「数が減っている」「増えない」ことは実際に現在活動している人々に負担を感じさせます。どのように解決するか、今後が注目されます。

（宮城・愛媛・静岡・千葉・新潟・山形・広島・茨城・東京など）

数よりも「若い世代の仲間を増やすこと」（千葉）「年々平均年齢が上がっている」（宮城）という意見は、今後の後継者を育てるというテーマにつながる課題です。あわせて「リピート率を上げる」（東京）という意見もありました。

○　コミュニケーションに関するもの

楽しく活動するために欠かせない「より良い人間関係」、そのベースとなる「コミュニケーション」を課題とするところもありました。

性別・世代などの違いによるコミュニケーションの少なさ　（神奈川）

レベルアップとより良い人間関係　（東京）

ボランティアの意見を聞いて欲しい　（愛媛）

ボランティアと運営スタッフの温度差

○　活動に関するもの

活動が単調になりモチベーション維持が難しい　（宮城）

信頼され活動領域が広がること　（静岡・東京）

自立した運営　（山梨）

→　多くは最優先の課題として「ボランティアの不足」を上げており、スポーツボランティアの活動基盤がまだまだ弱いことがうかがえます。スポーツボランティァの社会的な認知を高めること、それはまだ始まったばかりです。

御礼　ざっくばらんに意見を出してもらおう、それが調査の手法でした。ですから質問に対する答えは全て記述式のため、協力していただいたみなさんには大変お手数をおかけしたことと思います。合わせて、微妙なニュアンスを正しくまとめ得たのかはなはだ自信がありません。けれど、多くの前向きな気持ちのこもった回答や、課題があっても真摯に解決に向けて取り組もうとしているコメントには心を動かされました。今後という視点でみた場合、活動に参加する人数の少なさや活動の環境も含め、さまざまな人々や組織・団体にスポーツボランティアの素晴らしさや役割・必要性、何より楽しさをもっと正しく理解してもらう必要を痛感しました。もっとネットワークを広げ、情報を共有しながら活動が続くように、この調査も継続しトレンドを明確に記していきたいと思います。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

ASAMI Report

浅見　圭一（日産スタジアムボランティア）
全国各地のスポーツボランティアに参加中

スポーツボランティア体験記（1）
「信州ダービーが盛り上がるわけ」 ～
AC 長野パルセイロ VS 松本山雅 FC

サッカーには同じ都市や地域のチーム同士が戦うことをダービーと呼ぶ習慣があり、その多くが他地域のチームとのゲームに比較し盛り上がるとされています。ロンドン・マドリード・ミラノ、そして国内では静岡・東京・埼玉などがそのいい例でしょう。けれど、将来Ｊリーグを目指しているとはいえ地域リーグで、３千人以上の観客を集め、試合前のミーティングで「サポーターはかなり感情的になるかと思いますが、ボランティアの皆さんは決して感情的にならないように」と言われるほどのダービーはそうあるものではありません。何故それほどに盛り上がるのか、その答えが知りたくて「ＡＣ長野パルセイロ」（以下、長野）のボランティア活動に参加しました。

＜ボランティア活動＞

２００８年９月７日（日）、この日のゲームは長野にとっては北信越フットボールリーグでの優勝をかけた戦いであり、しかも相手は同じ長野県内で競い合ってきた松本山雅ＦＣ（以下、松本）ということできわめて重要なものでした。ボランティアは会場の南長野競技場に８時に集合、８時半から全体ミーティングがあり、その後、青年会議所・長野市役所・地元高校生・一般の４つの団体が、スタンドのごみ拾いから活動が始まりました。試合運営は長野市内の広告代理店と青年会議所が中心となっていて、ボランティアもここからも派遣されてきます。また、一般のボランティアの活動者は当日は１０名ほどで、普段のゲームでは６～７名ということでした。私たち一般ボランティアの活動はホーム側でのチケットのもぎり、案内誘導、マッチデー配布などで、私はマッチデー配布を開門から手伝い１１時ごろに早めの昼食を前座試合の観戦をしながらスタンド芝生席でいただき、そのあと再び配布に戻りました。ちなみにボランティアの服装は選手と同じオレンジ色のユニフォームで、更に「ＨＯＭＥ　ＧＡＭＥ　ＰＡＳＳ」と書かれたＩＤを着用します。

やがて１３時のキックオフのあとボランティアは前半と後半のどちらかに観戦することが出来たため、私は後半に観戦させてもらいました。会場自体も後半開始１５分以降はゲートフリーとなり無料で観戦できるようになっています。試合は前半終了間際に得たＰＫをＦＷ要田選手が決め、その一点を守りきって長野の北信越リーグでの優勝と地域サッカーリーグ決勝大会への参加が決まりました。その瞬間ピッチ上で喜ぶ選手、スタンドからは白やオレンジの紙テープが投げこまれました。セレモニーもありましたが私たちは「バナーの取り外し、緩衝地帯の柵の取り外し、灰皿やテントなどの備品の片付け」に黙々と汗を流しました。そして１７時から終了ミーティングがあり、私はボランティアの方にコンコースにパルセイロの大きなバナーが誇らしげに掲示されたＪＲ長野駅まで送っていただき帰京しました。

＜競い合うことで強くなる＞

何故、ダービーで熱く盛り上がるのかについては、歴史的な背景があるとお聞きしました。もともと明治時代までは「長野県」と「筑摩県」（県庁松本）がありましたが、筑摩県庁が火災にあり長野県庁に統合されて以来ライバル感情が激しくなったというのです。その後も１９７０年代までは分県論、移庁論が県議会等で何度もでたといいますからなかなか根深いものがあります。そうしたライバル意識が松本と長野のサッカー対決に反映、昨年の松本での試合では６，０００名以上の観客が集まったといいます。

長野のホームスタジアムは南長野競技場で最寄のＪＲ篠ノ井駅からはシャトルバスが出ていますが、当日はバックスタンドだけで２８社もの広告バナーが掲示され、地域リーグでは随一といわれるほど豊富なグッズもあってかなりの営業努力を感じました。それは現在のところ人気・観客動員・応援などでわずかに先行しているといわれる松本に対しかなりの努力を長野のみなさんがしていることを示している気がします。そして念願の北信越リーグでの優勝、地元の地方紙「信濃毎日新聞」は、長野・松本両クラブのスポンサーだそうですが、当日はパルセイロ優勝の号外を長野駅前で配布したそうです。

今、日本全国でさまざまなダービーが行われていますが、スポーツとそのダービーの歴史的な背景なども知ればもっと関心が高まると思います。今回経験した長野でのボランティアでは県外ではあまり知られてはいないものの「長野（信州）ダービー」の盛り上がりをぜひサッカー関係者に知ってもらいたいと同時に、今後もいい意味でのライバルとして競い合って欲しいと感じました。最後に今回の活動でお世話になった皆様、ありがとうございました。

追記／

その後１０月１７日から２２日にかけて新潟で開催された「全国社会人サッカー大会」において参加３２チーム中、「ＡＣ長野パルセイロ」は優勝、「松本山雅ＦＣ」は準決勝まで勝ち進み長野のサッカーのレベルの高さを全国に示しました。

SV2004

活動報告

仙台89ERS仙台開幕戦
活動報告
2008年11月8日･9日

4シーズン目となるプロバスケットbjリーグの仙台 89ERS の仙台での開幕戦が行われました。

昨シーズン、リーグ３位とプレーオフに進出し最期まで盛り上げてくれた「仙台８９ＥＲＳ」、既に１０月に開幕していたとはいえ、ホームアリーナの仙台市体育館で今期初めての連戦が行われました。相手はここまで首位の「埼玉ブロンコス」でしたが、チームは相手の攻撃を徹底的なマークで押さえ込み、連勝で２日間で７千人を越える観客を楽しませてくれました。

ボランティアも新人を含め､大きな混乱もなく活動を終え､こまかな改善点は今後チームと連携して修正していく予定です。

松島ハーフマラソンに参加して ～ 選手として見たボランティア

１０月１２日（日)、日本三景の一つ松島で「松島ハーフマラソン大会」が開かれ、私もエントリーし参加してきました。この大会は今回で３２回を迎え、今や多くの人々に愛されるものとなり、松島の秋の風物詩として欠かす事のできない大会となっています。昨年からハーフマラソンの部に制限のゆるい一般の部が追加されたことで参加者も増え今年は3,９５４人（3,７７３人が完走）もの人々が爽快な汗を流しました。また、招待選手としてアテネ世界選手権銅メダリストの千葉真子さんが参加し５キロの部を多くの人と一緒に走りました。更にはスペシャルランナーとして東北楽天ゴールデンイーグルス、Ｋスタ宮城スタジアムキャストのフロンティアステーション駅長、犬鷲の森の先住民さん、そして非公認キャラクターＭｒ.カラスコが参戦し人気を呼んでいました。会場のあちこちにはボランティアが活動していて運営を支えていました。

ゴール地点の給水を任された方々はテキパキと作業をこなし楽しそうでした。そこには私たちＳＶ２００４の仲間も活動していました。その方はマラソンが好きなのとこの大会が好きで活動している、とのこと。私はこの日会社の先輩と走る予定でしたが、当日その先輩の身内に不幸が出て参加できず、一人で会場を探索しているときに仲間と会ったことで心にゆとりを持つことが出来ました。

さぁ時間です。スタート地点に行く途中も仲間に見送られながらスタート！この日は風は多少吹いていましたが天気は快晴で心地よさで体が喜ぶのを感じます。終盤ラスト２キロあたりから練習不足ということもあり失速、スピードに乗れずにいたころゴール地点で待っている仲間の顔がうかび苦しい時間も乗り切り無事にゴール！そこには大きな声掛けと素敵な笑顔で活動をしているボランティアがおり、それが一番印象的でした。私の普段の活動もこんな笑顔で活動したいものと反省させられました。私にはスポーツボランティアをやっていたから仲間がいる、仲間がいたからこの大会で走りきることができました。ボランティアの経験のない人も、アスリートの人も少しだけ意識してください、もっと楽しい大会にきっとなります。会場のボランティアは一見華やかの舞台の裏での活動で地味ですがとても輝いてみえました。最期にこの大会を運営されたスタッフの皆様に、この場をかりて楽しく走れた事にお礼を申し上げます。 （渡辺　英樹）

このページは市民型スポーツボランティア　ＳＶ２００４の紹介ページです

SV2004について

【　誕生の経緯　】

ＳＶとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、１９９８年からスタートした「ブランメル仙台」（現在はＪ２ベガルタ仙台）のボランティアや２００１年の国体、２００２年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で２００４年に発足しました。

役割（ミッション）

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

- ○　私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
- ○　そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
- ○　思いをともにする人々とのネットワークを構築します
- ○　活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
- ○　サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
- ○　スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動（アクション）

活動の記録･報告はＳＶホームページをご覧ください

- ★　スポーツ全般のコーディネート活動　･･･　楽天イーグルス･仙台８９ＥＲＳボランティア組織立ち上げサポートなど
- ★　スポーツ及びボランティアのセミナー活動　･･･　接客･エコ･救命･災害･コミュニケーション･入門セミナーなど多数
- ★　スポーツに関する調査･企画･提案活動　･･･　ボランティアアンケートの実施など
- ★　スポーツ情報発信活動　･･･　ＳＶニュース、ホームページからの情報発信など
- ★　スポーツネットワーク･交流活動　･･･　全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
- ★　スポーツ環境改善活動　･･･　チーム･マイナス６％との連動･エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたＳＶ活動全般に参加する正会員とボランティア活動のみを行う準会員･活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

◎　正会員　･･･　年会費３，０００円　・　学生は１，５００円　（年度は４月～翌年３月となります）
◎　準会員　･･･　年会費５００円　　◎　サポート会員　･･･　年会費２，０００円
◎　お支払い方法･･･郵便振込み　郵便口座　１８１９０－２５９３０６５１　ＳＶ２００４まで（振込み料はご負担願います）
　　または、ＳＶが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。（イベントはホームページでご案内します）
◎　申し込み先　郵送の場合　〒９８０－０８１１　仙台市青葉区一番町４丁目１－３　仙台市市民活動サポートセンター　ＳＶ２００４
　　レターケースＮＯ．５０　（必ずレターケースＮＯをご記入ください）
　　メールの場合　izumita@dm.mbn.or.jp　ＦＡＸ　０２２－２７４－１４６９
◎　申し込み書はホームページよりダウンロードできます　http://www.miyagi-sports.net/sv2004

◆　多くの県でボランティアを募集中です

広域スポーツセンターボランティア　＜　各施設の公式ホームページより　＞

※　広域スポーツセンターは、各都道府県において広域市町村圏内の総合型地域スポーツクラブの創設や運営、活動とともに、圏内におけるスポーツ活動全般をサポートする組織です。

〔岡山県スポーツセンター〕　ボランティアページ　http://okayama-sports.jp/leaderbank/volunteer/index.php
〔えひめ広域スポーツセンター〕　ボランティアページ　http://www.eco-spo.com/02_shidousya/shidousya_01.html
〔とやまスポーツ情報ネットワーク〕　ボランティアページ　http://www.sportsnet.pref.toyama.jp/spovolmenu.html
〔広島市スポーツ協会〕ボランティアページ　http://www.sports-or.city.hiroshima.jp/attend/index.html
〔とっとり広域スポーツセンター〕　ボランティアページ　http://210.188.233.145/modules/myalbum/viewcat.php?cid=150
〔山口県スポーツ情報ネットワーク〕　ボランティアページ　http://www1.odn.ne.jp/sports-yamaguchi/index.html
〔埼玉広域スポーツセンター〕　ボランティアページ
http://www.pref.saga.lg.jp/web/ptortsbora.htmlhttp://www.sun.pref.miyazaki.jp/sports/http://fivul.pref.saitama.jp/Stmwasc/servlet/ScUTopicsRef?formtype=search&caller=ScUSiteReferenceLst&siteid=fivul&topicsid=00221
〔大阪府広域スポーツセンター〕　モッピークラブページ　http://mic.e-osaka.ne.jp/ns-net/ns-net/moppyclub/moppyclub.htm

（注意）　内容は０８年１１月１０日段階のものです、各施設の都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS　＜　今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。　：　敬称略　＞
♥浅見　圭一　♥渡辺　英樹♥村松　淳司♥スポーツボランティア調査に協力いただいた全国のボランティアのみなさん

☆　**スポーツボランティアの前向きな情報（募集・活動報告など）を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場としてＳＶニュース活用願います。**（提供先は下記に記載）

◆　加油　（ 新書／朝日新聞出版／重松清 ）・・スポーツに関する書籍紹介

表題は「ジャアヨウ」と読む、中国語で「ガンバレ」。今年の夏、オリンピックの会場からの中継の際に、それも日本の相手となるチームに対する声援として耳についた言葉だ。テレビや新聞が主として取り上げるメダリストのインタビューや競技の様子に対して、街中や郊外のそれも中国の人々の様子を通してオリンピックをみつめた新書が表題の一冊である。著者は身近な人の死をテーマにして書かれた「その日のまえに」など、心を揺さぶる心象風景を物語としてみせてくれる重松清、帯には「五輪の街に生きる、フツーの人々の物語」とある。この新書にも当然ボランティアがあちこちに登場する。組織にしばられ機能しないボランティアもいれば、本当に必死に世話をしようとする人や、国際交流の貴重な体験の場とばかりに断られても手伝おうとする若者の姿は、ちょっとこっけいでもどこと無く自分にも通じるものがある。そしてその多くが学生でありエリートであるという事実に対しては、ぜひ今回の体験を通じて人を思いやる気持ちをこれから大事にしてほしいと切に願いたい。その思いは著者が最期に書いたように、「あのオリンピックを契機にして中国はどんどん自由な国になったと書ける様に祈りたい」、に通じていると思う。「加油、自由・加油　中国」

編集後記

地元のプロチームをサポートする人がいる。年一回の大きな大会をしばらく前の準備段階から支える人たちがいる。全国にあるスポーツのボランティア組織を訪ね活動の体験をしている人がいる。障害を持っている人が楽しくスポーツに参加できるように自分の時間を削って応援している人がいる。イベントの運営の手伝いだけでは不十分とスポーツチーム（会社）を存続させるために、人や組織をつなごうとしている人がいる。いつか総合型のスポーツクラブができる日を夢見て、幅広いスポーツのボランティアをめざす人もいる。今、日本は景気低迷の只中にある。しかし、そんな中でも常に前を向いて楽しげにスポーツを支えようとするボランティアがいる。そのことをSVニュースはこれからも伝えていきたいと思う。

◆　このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。　http://www.miyagi-sports.net/sv2004/index.php
スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。　　◆　情報提供先　　izumita@dm.mbn.or.jp